

## 医療薬学学術小委員会（新規）

### 1. 小委員会名、研究テーマ

小委員会名	2025 年度医療薬学学術第 3 小委員会
研究テーマ	患者・市民に対する e ヘルスリテラシー向上を目的とした薬剤師による教育プログラムの開発と実装

### 2. 小委員会の委員長、構成委員

委員長	フリガナ	イワサワ マキコ
	氏名	岩澤 真紀子
	所属施設の名称 (正式名称)	北里大学薬学部 北里大学病院薬剤部

構成委員	氏名	所属
	春日井 公美	北里大学薬学部、北里大学病院薬剤部
	山本 悠樹	北里大学薬学部、北里大学病院薬剤部
	婦川 貴博	北里大学薬学部、北里大学病院薬剤部
	長崎 郁美	北里大学薬学部、北里大学病院薬剤部
	前田 実花	北里大学薬学部、北里大学病院薬剤部
	大岡 元	相模原市薬剤師会、大岡薬局
	赤川 圭子	昭和医科大学薬学部 社会健康薬学講座 社会薬学部門
	菊池 千草	昭和薬科大学 地域医療部門
	堀井 剛史	武蔵野大学薬学部 臨床薬学センター

### 3. 研究の目的

近年、情報技術の進展により、医療や健康に関する情報をインターネット上で容易に入手できるようになった。しかし、その正確性や信頼性にはばらつきがあり、一般市民には適切な情報を選別し、活用する能力（e ヘルスリテラシー）が求められている。代表者が 2024 年に地域住民を対象に実施したヘルスリテラシー教育では、受講者の 95.7%がスマートフォンなどのモバイル端末を所持し、主にインターネットから健康情報を入手している実態が明らかとなった。この結果から、デジタルツールを活用した e ヘルスリテラシー教育の必要性が示唆された。

先行研究では、集中力や注意力の維持という観点から、短時間動画やマイクロラーニング形式が学習効果を高めることが報告されている。本研究では、約 30 分で完結する体験型 e ヘルスリテラシー教育プログラムを開発し、講義（インプット）と演習（アウトプット）を組み合わせ学習により、インターネット上の医薬品

情報検索・評価・活用スキルを習得させる。さらに、開発した教育プログラムの有効性を実証することを目的とする。

## 4. 活動計画

### (1) 初年度(2025年度)

#### 1 オープンキャンパスにおける教育プログラムの実施

ヘルスリテラシーに関する講義およびアンケート(初期案)に基づき、北里大学薬学部オープンキャンパスにおいて、高校生・一般市民を対象に 30 分の講義・演習を実施する。事前に eHealth Literacy Scale (eHEALS)による自己評価アンケートを行い、演習では模擬検索課題と自由記述を組み合わせることで、検索行動・信頼性評価能力・理解度を多面的に把握する。

#### 2 教育プログラム案の策定

演習後に参加者の検索行動やニーズを分析し、その知見をもとにインターネット検索スキルおよび情報評価能力向上を目的とする教育プログラム案を策定する。あわせて、学習効果測定のための評価方法や参加者負担、評価者の客観性を考慮した多面的評価手法を検討し、講義内容・演習進行・教材構成の改善点を整理して次年度以降の改訂準備を行う。

### (2) 2年度目(2026年度)

#### 1 オープンキャンパスにおける教育プログラムの実施

7月・8月のオープンキャンパスで 30 分の体験実習を再度実施し、eHEALS スコアおよび検索行動・ワークシート分析を通じて教育プログラムの効果を測定する。

#### 2 ヘルスリテラシー教育普及活動および地域プログラムの試行

相模原市薬剤師会と連携し、会員薬局に啓発ポスター掲示を依頼するとともに、患者やその家族を含む地域住民を対象に年2回の教育イベントを地域で試験的に実施する。これにより、オープンキャンパスとは異なる層のニーズや運営上の課題を明らかにする。

#### 3 質問紙調査と質的テキスト分析

地域プログラムの前後に自由記述式アンケートを実施し、質的テキスト分析によって情報源評価やエビデンス確認に関する言及を抽出する。また、参加者特性との関連も検討する。

#### 4 演習問題の開発

スマートフォン等で実施可能な演習問題を既存ツール(Google フォーム等)で開発し、教材および評価手法をブラッシュアップする。

#### 5 研究成果の発表

2年次の成果を国内学会で発表する。

### (3) 3年度目(2027年度)

#### 1 教育プログラムの最終実施

2年次のフィードバックを反映して講義内容・教材・演習方法を改訂し、オープンキャンパスおよび地域で改訂版プログラムを実施する。相模原市薬剤師会と協力して啓発ポスター掲示を継続するとともに、患者・一般市民対象の改訂版教育プログラムを年2回実施する。さらに、他地域での実施可能性についても検討する。

## **2 収集データの分析**

改訂版プログラム実施後に質問紙調査と質的テキスト分析を行い、参加者の反応や学習効果を詳細に解析する。

## **3 教育プログラムの普及展開**

講義・演習内容を動画コンテンツ化し、演習問題とともに日本医療薬学会ホームページ上で公開して、薬剤師が利用できる教材として展開する。

## **4 教育プログラムの全体的効果の総括**

研究期間中に得られた全データを統合し、改訂版プログラムの全体的な効果を総括的に評価する。

## **5 成果発表**

研究成果を国内外の学会や論文を通じて発信・普及する。

## **5. 共同研究、他学会・団体からの支援（COI 申告を含む）**

本研究計画において、他の学会、団体、大学、企業、行政機関等との共同研究や協力・連携、研究費の支援はない。また、本研究では、構成メンバーの学会参加費等、所属大学の一般研究費で認められる経費を適切に活用するとともに、大学経費では支払いが難しい研究運営費や謝金等については助成金を活用する予定である。